

いずみさの教育

NOW

問合先
学校教育課

予測困難な時代を生きる子どもたちのために

最近よく聞く「非認知能力」とはどんな能力のことでしょうか。はつきりわからないという人も少なくないのではないかと思います。反対の言葉である「認知能力」とは、IQや学力テストなど数値で表すことのできる能力のことです。認知能力の前に「非（あらざる）」という文字がついていますので、「非認知能力」とは「数値で表すことのできない能力」ということになります。

非認知能力には、大きく分けて、「自分の内にある力」と「他者との関わりの中で発揮される力」があるとされています。自分自身の内にある力には、あきらめない力、目標に向かってがんばる力、最後までやり遂げる力などがあります。一方、自分以外の他者と関わる力には、他人の意見を尊重する力、人の気持ちに共感する力、相手の立場になって考える力などがあるとされています。

このように具体的に並べてみると、保護者のみなさんにとっても、「ぜひ我が子に育んでほしい」と願うような力も多いのではないのでしょうか。

非認知能力が注目されるようになった理由として、大規模な災害や未知のウイルスの流行だけでなく、近年、経済のグローバル化や技術革新など、予測困難な時代となってきたことが関係しています。どんなときでも何が起ころうとも、相手の立場を考え、あきらめず、状況を的確に判断し、自ら考え行動する力は、子どもたちが未来を生き抜く上で必要な力といえるでしょう。

子どもたちを見守っている保護者・地域と学校が、非認知能力について正しく理解し、子どもたちに適切に関わることも、未来を生きる子どもたちの成長にとって大変重要であると考えられています。

12月24日、非認知能力研究の第一人者である岡山大学の中山芳一さんを泉佐野市教育フォーラムに招待します。ぜひこの機会に、子どもたちの周りの大人が非認知能力についてより深く理解し、泉佐野市の子どもたちを見守っていききたいと思えます。詳しくは、広報12月号をご覧ください。

学校園紹介



平和学習の充実に向けて ～日根野小学校～



日根野小学校では、毎年7月から継続的に平和学習に取り組み、8月の登校日には平和集会を行っています。集会では平和と戦争に関する話を聞き、平和への祈りを込めて黙祷をした後、全員で「おりづる」を歌いました。教室では

6年生のサポートのもと、折り紙に平和への願いを綴り、全校児童が千羽鶴を折り、広島へ届けます。

今年から修学旅行先が広島方面になったことで、子どもたちは平和の尊さと平和への願いをより強く意識するようになりました。10月には、広島平和記念資料館を見学し、平和記念公園でセレモニーを行い、碑巡りや被爆体験の聞きとり学習をします。修学旅行の後には、全校児童への報告会を行います。



小学校の6年間を見据え、教材を精選し、学校全体として系統立てて学習を進めてきた結果、子どもたちは世界情勢や身の周りのことについて、さまざまな側面から考えを深めることができてきました。そして、日常生活の中で自分たちができることを考え、行動に移しています。相手を大切にすることが平和への近道ではないかという感想もあり、心の成長を感じ取ることができました。



人権・平和学習 ～長南中学校～

長南中学校では、人権教育を柱として教育活動を進めており、その一つとして反戦平和学習に取り組んでいます。

5月に、3年生は2泊3日で沖縄方面に修学旅行へ行き、各訪問先での施設見学や聞き取り



で、これまで学習してきたことを実感することができました。「沖縄慰霊の日」(6月23日)にあわせて、全学年が沖縄について学習しました。8月6日の平和集会では、広島平和記念式典の平和の鐘に合わせて黙祷した後、各学年がこれまで学習してきたことを発表し、共に平和について考えました。また、3年生の代表が地域で行われる「人権・平和のつどい」にて、長南中学校の平和学習の報告と平和宣言を発表しました。

本校には以前から、人権尊重、反戦平和の思いを込めて「アンネのばら」が育てられています。それに加えて今年の5月、長南中学校の私たちが平和の実現に向けて考える一員であるシンボルとして、被爆アオギリ2世の苗を植樹しました。

これからも、人権・平和学習を大切に教育活動を進めていきます。

